

小学校5・6年生
こんな時期です



学習時間のめやす

75～90分

「育ち」や「学び」の特徴

- 一人前に接してもらっているか、大切にされているかなど、大人の評価が気になります。
- 自分を客観的に見つめたり、友だちと自分を比べたりするようになります。
- 考える力も大人並になり、時には大人への反抗も見られます。
- 小学校の学習のまとめをして、中学校につなげる大切な学年です。
- 得意な教科と苦手な教科を意識し始めます。
- 先生や家族のアドバイスにより、学習に対する意欲や興味・関心が大きく左右されます。

学習内容の特色(学校で)

- 「家庭科」の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
- 学習内容が多くなる上に、社会や世界に目を向けた学習もします。
- 筋道立てて考える論理的な内容の学習や抽象的な内容の学習が増えてきます。
- 自分で課題を見つけ、解決していく学習（問題解決的な学習）が多くなります。
- 自ら学ぶことの面白さや楽しさを経験させ「学び方」や「ものの考え方」を育てます

家庭学習の つぼ! 3か条



その

1

予定を立て、計画的な学習を! ～勉強時間を決めて～

放課後も慌ただしく過ごす子どもが多く見受けられます。その日の予定を立て、見通しをもって学習させましょう。必ず学習する時間帯の設定をさせましょう。

最初は、予定通りできないこともありますが、長い目で見守りましょう。

その

2

今一度、基本的な生活習慣の見直しを! ～生活にリズムを～

生活リズムの乱れは、勉強ごらいにつながります。
「早寝早起き、夜更かしをしない」「朝食をとる」「朝に排便を済ませる」「テレビやゲームの時間を決める」など、中学校生活に向けて、今一度生活習慣の見直しをさせましょう。

家事の分担も積極的に進めましょう。

その

3

目標に向かって努力することの大切さを!

子どもの将来の夢や希望、勉強する目的や勉強方法、学校の学習の様子や親の失敗談などを話題にして、目標をもって努力することの大切さを伝えましょう。どれだけがんばったのかが大切です。

子どもに「伝記(偉人伝)」を読ませてみるのもよいでしょう。



ワンポイントアドバイス

小学校

5・6年生

家庭学習

こんな内容・方法で

～家庭学習を始める前に～

- 学習前に、勉強する場所の整理整頓を。
- 学校からのプリント類を親に渡す習慣を。
- 宿題を自分で確かめ、やる順番を決めさせる。



宿題

学校での学習をふり返りながら、教科書やノートを参考にして、苦手な内容もねばり強く取り組むようにアドバイスしましょう。



日記

書くことに慣れるとともに、自分の気持ちや考えを整理することの大切さに気づくように働きかけましょう。

国語

音読

- 間を取りながら読むなど、自分のめあてを決めて練習しましょう。
- 詩や俳句、短歌などを暗唱したり、朗読したりしましょう。
- 他の教科の教科書を音読すると、重要な用語や内容を理解できるようになります。

漢字

- 漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。
- 習った漢字を使って、熟語や短文を作りましょう。
- 国語辞典や漢字辞典の使い方に慣れるよう手元におき、常に使用しましょう。

読書

- 家族で感想を語り合い、共に心を通わすことのできる世界を作りましょう。

算数

計算

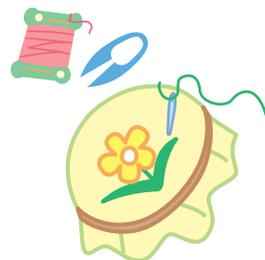
- よく間違える計算は、繰り返し練習しましょう。
- 答の確かめを、自分でできるようになります。

音楽

- 機会を見て、リコーダー（縦笛）の練習をしましょう。
- 家族で、音楽会にもチャレンジしましょう。

家庭科

- 家庭科で学習したことを、家庭生活の中で実践しましょう。
- 学んだことを生かし、家事の分担を考えましょう。



長い休みにはこんなことを!

たとえば

- 博物館や美術館に出かけ、沖縄の自然や歴史・文化に触れたり、絵画などを鑑賞する。
- 買い物から調理まで家族でクッキングにトライする。
- 自分の街の自慢（自然、公園、施設など）を絵に描いたり、身の回りの材料で工作したりする。

我が家のばあい

- 当たり前のことができない子どもに驚きます。我が家では「落ちたら拾う」「汚れたら洗う」「困っている人がいたら見て見ぬふりせず助けてあげる」ことが何よりも大切だと考えております。

ちょっとひとこと

算数・数学の学習で大切なことの一つにノートをきれいにとることがあげられます。きれいにとることで、つまらない計算ミスがなくなり、頭の中も整理されます。テストでいえば10点はアップすることでしょう。ただきれいに書くではありません。「日付、ページ、番号を書く」「定規を使う」「間違いは×をつけて書き直す」など、正しい方法で努力すれば必ず伸びます。きれいに書けた時は、めいっぱい本気で褒めてください。何事も「励まし」の継続が重要です。